

11月の果実の見通し

| 区分 品目 | 入荷量(t) | | | 単価(円/kg) | | | 山形県産前年実績 | | コメント |
|----------|--------|------------------|-----------|----------|------------------|-----------|------------------|------------------|---|
| | 前年実績 | 前年比 見込 (%) | 5カ年 平均 | 前年実績 | 前年比 見込 (%) | 5カ年 平均 | 前年 入荷量 (t) | 前年 占有率 (%) | |
| りんご類 | 8,643 | 100 | 8,098 | 271 | 102 | 270 | 2,199 | 25.4 | 青森、長野、山形産中心の入荷となる。本年産りんごは早生、中生品種共に前倒し気味の出荷であった。食味に優れていたこともあって販売は順調で高価格の取引となった。10月中旬ごろから徐々に売れ行きは鈍ってきたが、下旬より「ふじ」が始まることで価格も回復する見込み。「ふじ」に関しては内容・品質共に安定した商品としてギフト向け需要も高まる予想。入荷量、価格ともに前年並み。 |
| かき類 | 7,270 | 96 | 7,343 | 214 | 98 | 252 | 510 | 7.0 | 福岡、奈良、新潟産が中心となる。10月上旬より和歌山産が出荷ピークになったが、同時に各産地からかき類が入荷し始めたため販売苦戦となった。中旬も前年を上回る入荷量で販売環境は改善の兆し見えず、下旬までは苦しい販売状況が続く。たねなし柿は各産地大幅に生育前進しており、例年より1週間早めの推移。月末は徐々に改善して、11月の「富有」が入荷本格化してくる頃には荷動きも出てくる見込み。 |
| 西洋なし | 971 | 140 | 1,174 | 381 | 95 | 324 | 895 | 92.1 | 今年は入荷量が多く、市場で価格を引っ張りきれない心配がある。全般に生育は前進傾向である。仮に11月に前年を下回れば、12月は確実に価格は前年を上回る。それだけ品質は良好で、大玉傾向であり、価格はいったん下がって浮上してくると予想される。総入荷量は前年を大幅に上回り、価格はやや下回る見込み。 |
| いちご類 | 730 | やや下 回る | 594 | 1,673 | 100 | 1,640 | 1 | 0.2 | 各産地ともほぼ例年通りの出荷開始となっている。11月中旬になれば九州産「あまおう」「さがほのか」の入荷も始まり、下旬にかけて数量もまとまってくる見込み。長期予報では暖冬との見込みあり、予想外の寒波がなければ、11月下旬にかけて価格は下げ基調で推移する。栃木の集中豪雨による影響が懸念されていたが、植え直しも順調に進んでおり、今後の天候次第では遅れも挽回できる見込み。 |
| ほしがき | 93 | 105 | 92 | 1,673 | 101 | 1,650 | 0.12 | 0.1 | 11月から活発に入荷が始まる見込み。今年は冷え込みが早く作業も順調でほぼ前年並みのスタートと予想している。シーズン後半までの売りやすさを配慮するならば前年並みの価格でシーズンが始まると予想している。総入荷量は前年をやや上回る見込み。 |